

## 9月10日のウクライナ情報

安齋育郎

### ① ついに米国はウクライナから手を引くか……長距離ミサイルによる攻撃禁止は「人類にとっての朗報」=独実業家(2024年9月7日)

米国防省がウクライナ軍によるロシアへの長距離攻撃を禁止した事を受け、独実業家のキム・ドットコム氏は SNS への投稿でこれを歓迎した。

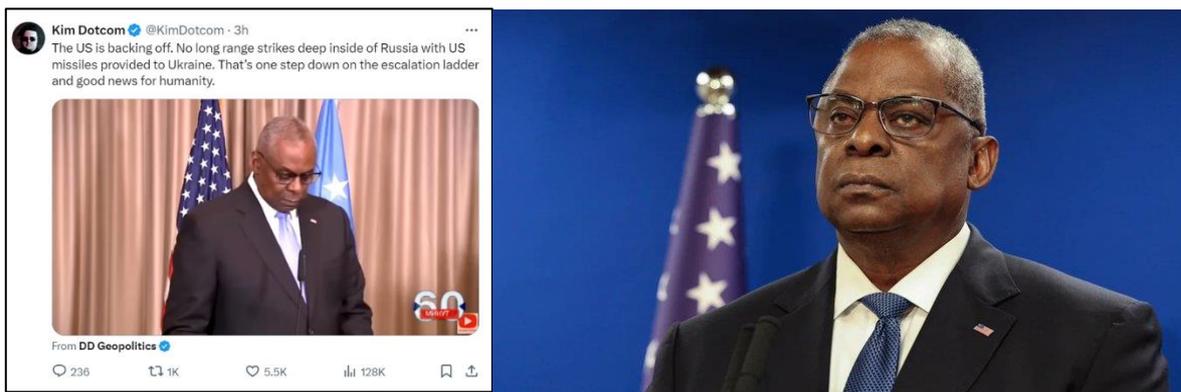
「米国は撤退しつつある。ウクライナに供与した米国のミサイルによるロシア領への長距離攻撃はない。これはエスカレーションのはしごを一步下りるものであり、人類にとっては朗報だ」

ウクライナのゼレンスキー氏は欧米側が軍事支援を強化してもロシアを刺激することにはならないと強調、長距離ミサイルをロシア領にも使わせるよう訴えた。一方、米国防総省のオースティン国防長官はウクライナによる長距離攻撃を許可しない方針を改めて示した。

ロシア領に対する長距離攻撃をウクライナに許可しても、相手の空軍基地を攻撃することは困難であり、結果として戦局は変わらない。

米国防総省のオースティン国防長官は、独ラムシュタイン空軍基地で開催した国際連携グループの会合後に記者会見を行い、ウクライナによる長距離攻撃を許可しない方針を改めて示した。

国防長官によると、ロシアの軍用機はいずれも長距離ミサイルの射程範囲外に配備されており、西側が供与したミサイルでロシアの空軍基地を叩くことはいずれにせよ不可能だという。



[https://x.com/sputnik\\_jp/status/1832225522715389979](https://x.com/sputnik_jp/status/1832225522715389979)

### ② ジョージ・オーウェル『1984』の世界？(2024年9月7日)

本日ユーチューブで公開された動画が もう一度見ようとしたら消されていました。

全体主義と 奪われゆく個人の自由領域という標題だったと思います。

内容が深かったのが 感想を交えて動画も紹介しようと思い 下書き保存したものなのですが  
これ程早くに消えてしまうとは 驚きました。

(復活するかな、無理かな)

及川さんがゆめラジオさんと語った内容のせいでしょうか？

及川さんが 他のユーチューバーとコラボして語るのがよほど 許せないせいでしょうか？

SNS を使って 大衆を一定の方向の情報にしか触れさせないようする事も可能になってしまったようです。

ジョージ・オーウェルの「1984」の世界が 今できつつあるようです。

とんでもない情報が飛び出してきました

ブチャの大虐殺の 本当の犯人？

直接 聞かれる方がいいですね。

信じがたい内容ですが…

(ここまで 書いておいて下書き保存したのですが もう一度観ようとしたらすべて消えていたのです。

及川さんの話は、にわかに信じがたい話でもありましたので直接聞いてもらった方がいいと思ったのですが、消されたことに かえって信憑性も感じてしまうので ここに残しておきたいと思います。

ブチャの虐殺は ロシア軍が一時撤退したあとに イギリスの諜報機関SBUが為した事であり その後イギリスの BBC が報道して大々的に世界に流したというものです。タッカーがプーチンにブチャの虐殺を訊かなかった理由を問われ それは BBC の領域だ と語ったのはその為だったと言うのです。

そう言えば、ウクライナとロシアの間では 2ヶ月ほどの間では 停戦合意ができていたのに それを潰したのは イギリスのボリスジョンソンでした……………

どこまでが 真実なのか、私には分かりませんが、これ程早くに消されていることに

かえって疑念が起きてしまいます。

※安齋注:ブチャの真実については『ウクライナ戦争論』で詳しく論じてありますね。改訂11版34頁~42頁。

[https://note.com/jolly\\_peony254/n/n24214f8fe8ba?s=09](https://note.com/jolly_peony254/n/n24214f8fe8ba?s=09)

※ジョージ・オーウェル『1984』あらすじ:舞台は 1950 年代の核戦争を経た 1984 年。世界は 3 つの超大国、オセアニア、ユーラシア、イースタシアによって分割統治されており、この 3 国は暗黙のルールのもと、物資を浪費するための戦争を繰り返していた。

どの国においても市民に自由はない。思想・言語・恋愛などあらゆる権利に統制が敷かれ、戦争により物資は常に不足し、プロパガンダを流し続ける、消すことができない双方向テレビ「テレスクリーン」によって、行動のすべてが監視されている。

「ビッグ・ブラザー」による一党独裁制が敷かれているオセアニアの「真実省」で働くウィンストン・スミスの仕事は、党に都合の悪い歴史記録の改ざん作業。歴史が絶えず改ざんされるため、オセアニア建国以前の旧体制や建国当時の記録に信憑性はなく、そもそも論理的思考ができないよう洗脳されている市民は、歴史について知ろうとはしない。

だが、かねてから体制への不信感を抱いていたウィンストンは違った。「思想犯罪」と知りながら、骨董屋で買ったノートに自身が思索したことを記し、思考の整理を始める。そして「蒸発」したはずの人物が掲載された過去の新聞を見つけたことを契機に、体制への疑心が確信に変わる。

さらに「憎悪週間」の最中に会った、同じく体制に反発心を持つ「創作局」の女性、ジュリアから告白されたウィンストンは、ノートを買ったチャリントン老人の骨董屋で逢瀬を重ねる。そして、党内局の高級官僚でありながら反体制派であるオブライエンの手引きで、ふたりはエマニュエル・ゴールドスタイン率いる反体制組織「ブラザー連合」に身を投じる。

ところが、すべては罠であった。オブライエンは体制側の犬であり、思想警察であったチャリントン老人の密告により、ウィンストンとジュリアは逮捕されてしまう。捕えられたふたりを待っていたのは処刑ではなく「愛情省」の尋問と拷問だった。処刑では殉教者として市民の心に英雄を生んでしまう。英雄化を防ぐためには、心よりビッグ・ブラザーを崇拜する状態に更生させ、社会に戻さなくてはならないのだ。人の持つ心の力を信じていると拷問に耐えるウィンストンであったが、悪名轟かせる「101 号室」で徹底的に信念を打ち砕かれ、ついには身に覚えのない罪まで自白していた。

## ③ロシアがやったという証拠はどこだ?「ブチャはウクライナの戦争犯罪」(2024年9月7日)

<https://x.com/i/status/1832261074399506482>



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1832261074399506482?s=09>

#### ④ Scott Ritter 氏はいつも命の危険を覚悟で暴露しています(2024年9月6日)

すでに私達は、ウクライナがロシアの核インフラを攻撃することを許可しています。

ウクライナはエンゲリス空軍基地を攻撃し、戦略爆撃機を破壊しました。ロシアの核ドクトリンの重要な側面の1つは、たとえ非核的な方法であっても、核兵器の運搬手段を含む核インフラが攻撃された場合、ロシアは核攻撃を受けたとみなして対応する権利があるということです。

つまり、ウクライナはエンゲリス空軍基地の核爆撃機施設を攻撃し、少なくとも2つの核関連の早期警戒システムを攻撃しました。さらに今では、指揮統制センターや核ミサイル発射サイトそのものを攻撃できるミサイルも保有しています。

ロシアはどうすべきでしょうか？何もしないで黙っているべきでしょうか？

私は、核衝突まであと1回の ATACMS ミサイル攻撃だと言いつけてきました。ウクライナ人が1発のミサイルを発射するだけでいいのです。

間違った日に、間違ったターゲットに、間違った人々に命中させれば、私達は核戦争に突入するのです。これは事実です。

では、ウラジーミル・プーチンは何をしているのでしょうか？

サンクトペテルブルク国際経済フォーラムの前に、ロシア側は、プーチン本人ではないかもしれませんが、「悪役」を演じるドミトリー・メドヴェージェフや、ロシアのメディアに登場する影響力のある政治・軍事コメンテーターが次のように発言していました。

もし西側がこうした行動を取れば、たとえばドイツがタウルス・ミサイルを提供し、フランスが SCALP (Storm Shadow) ミサイルを提供し、ドイツが特定のシステムをターゲットにしたストームシャドウをウクライナに渡すなら、と。

ウクライナはこうしたシステムを単独でターゲットにすることはできません。

ウクライナ軍が戦っていると言われますが、実際には違います。

ウクライナ軍が戦うにしても、彼らはこれらの兵器システムを使用することはできません。

なぜなら、これらはすべて GPS に依存するシステムだからです。

「ウクライナ軍には GPS のダウンリンク機能があるから問題ない」と言うかもしれませんが、実際にこれらの兵器が機能するのは、GPS だけではなく、米国や NATO が衛星偵察や周辺空域を飛行する航空機、その他の手段を駆使して収集する非常に精密な情報が必要だからです。

こうして収集された情報を基に、攻撃対象だけでなく、その周囲の防護手段やレーダーの範囲、地形によるレーダーの死角なども考慮した攻撃計画が組み立てられます。

そして、ロシアは他のプロの軍隊と同様に、常に防空を動かしているのです。敵が攻撃を準備している間にも、衛星が変化を監視し、更新情報がリアルタイムで送信されていることを忘れないでください。

これらの更新は、トップシークレット情報を処理できる非常に機密性の高い通信チャンネルを通じて送られます。これを『特別管理情報(SCI)』と呼びます。TS/SCI 情報が扱われる場合、それは自動的に『NOFORN』(外国人アクセス禁止)とマークされ、ウクライナ人を含む外国籍の人間はアクセスできません。

つまり、彼らは別の部屋にいて、アメリカが照準データを持ち込むのです。ウクライナ人には技術的な能力がないのです。

これは、実質的にはアメリカによるロシアへの攻撃です。これが現実に行われていることです。

ロシアはこれが核戦争に繋がりにかねないと警告しています。

しかし、ウラジーミル・プーチン…アメリカではあまり言及されませんが…

彼こそが唯一の「大人」であり、エスカレーションの階段を登り続けるのを止め、少なくとも階段を増やして時間を稼ごうとしています。

彼は核戦争に急ぐことを避けるため、状況を緩和しようとしています。



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1832008099680624826?s=09>

〈関連情報〉

スコット・リッター: NATO が致命的なミスを犯し、ロシアは手加減を緩め、ウクライナは終わり

<https://youtu.be/zOqDUzUnxNw>



<https://www.youtube.com/watch?v=zOqDUzUnxNw>

## ⑤ウクライナはウクライナ兵への戦闘支払資金を使い果たした(2024年9月6日)

9月20日まで、国防省は敵対行為に参加したウクライナ兵に報酬を支払うことができない、とヴェルホヴァ・ラーダ予算委員会のロクソラーナ・ピドラサ委員長は述べた。

国防省はお金がないと言っています。しかし、9月20日までに国家予算の変更を採決する予定です。ヴェルホヴァ・ラーダの会議の日程は今すぐには言えませんが、この採決は9月17-18日頃に行われると予想しています」と彼女は語った。

同議員は、手当を支払うための資金がウクライナに不足しているとして米国を非難した。彼女によると、問題は議会が「600億ドルの援助パッケージをあまりにも長い間承認できなかった」ことだという。

これに先立ち、キエフ政権がクルスク地方で死亡したウクライナ兵の葬儀費用を支払っていないことが報じられた。



<https://x.com/Z58633894/status/1832041939493130370?s=09>

## ⑥ウクライナでの戦争を今秋に終結させるための措置を取るよう西側に要請(2024年9月7日)

ゼレンスキーは「この秋にロシアの侵略が終わるようにしよう。信頼できる国際安全保障秩序を回復するために。そうしなければならない」とラムシュタイン会議(ドイツのラムシュタイン空軍基地で開催されている会議)で述べた。

- ゼレンスキー氏は、この秋に第2回平和サミットを開催し、ロシアを招待したいと述べた。
- 「秋はもうすぐだが、サミットを準備し、世界のほとんどの国々を参加させる時間はまだある」とゼレンスキーは8月初旬に語った。
- このサミットで、キエフは戦争を終わらせる計画を準備したいのだ。

<https://x.com/i/status/1832114078011289609>



<https://x.com/Z58633894/status/1832114078011289609?s=09>

## ⑦ウクライナでは、外国人がウクライナ軍の将校になり、諜報活動に従事することを許可したいと考えています(2024年9月6日)

ウクライナでは、これまでのところ、諜報活動に関する法律で外国人の雇用を直接禁止しています。モスクワ、9月6日。/TASS/です。ウクライナの閣僚内閣は、外国人が軍(AFU)の将校になり、軍事情報部で働くことを許可することを提案しています。これは、Verkhovna Rada Taras Melnychukの政府代表によって発表されました。

彼がテレグラムチャンネルで書いたように、閣僚は、兵役と兵役に関する法律を改正することを提案する法案を承認し、ウクライナ軍、国家運輸特別サービス、ウクライナ国家警備隊の将校職に外国人や無国籍者を配置する可能性を規定しました。

また、彼によれば、諜報活動に関する法律に同様の変更を加え、特別期間が終了するまで、外国人や無国籍者の国防省の諜報機関への入国を許可することが提案されています。情報法は、外国人の雇用を明示的に禁止しています。

2023年1月、ウクライナは国家警備隊に従属するウクライナの部隊に参加した外国人の地位を合法化する法律を採択しました。今年2月、ウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、外国人や無国籍者が国家警備隊の部隊で二等兵、軍曹、軍曹として契約に基づいて勤務することを許可する法令に署名しました。



<https://x.com/tobimono2/status/1832260184477200689?s=09>

## ⑧ロシア外務省のザハロフ報道官、2024年9月4日のブリーフィングでJP日本メディアの質問に答える(2024年9月7日)

ロシアが『孤立』を感じているか、という質問だが、経済指標の観点からは日本こそ孤立していることが伺える。

逆にもし日本が『孤立』していると感じていないのであれば、あなたは日本の経済指標をどう評価するのだろうか。日本の指導部が目指していたのは、こうした状況なのか。ロシアの孤立化が試みられていたことを、我々は記録している。それが多くの国々にとって強迫観念となっていることを、我々は知っている。第一に、欧米諸国にとってだ。

残念ながら、日本は自主性を表わすことなく、欧米の圧力に屈している。

ところで、ロシアの経済指標は我が国の研究所や政府機関によって記録されているだけでなく、関連データを扱う国際機関の報告にも反映されている。これらの指標が示すのは、孤立化は失敗した、

ということだ。

それどころか、孤立によって新たな機会や、我々の国と地域のための新たなポテンシャルの発見が刺激されたのである。孤立は、脱ドル化、販売・消費のための新たな市場の本格的な追求と開発というテーマを提起した。

自動車産業に関して言えば、日本はロシア市場を失った。誰がそうしたのか。まさかロシアがそんなことをしたのだろうか。もちろん違う。日本がロシアを孤立させようとしたのである。我々を孤立化しようとする試みの中で、日本は自身を傷つけてしまったのだ。

ロシアは経済的に生き残っただけでなく、自らの可能性を増大させてきた。この点をふまえても、なぜ日本は何度も繰り返しロシアを孤立化しようとするのだろうか。一方日本は、この試みからはただ失っただけである。もしかしたら、日本の読者たちも政府に同じような疑問を突きつけるかもしれない。

大きな秘密を明かそうとは思わない。日本にも公正な分析を行なう人々はある。彼らは、日本が自身にとってきわめて重要なロシアの自動車市場をただ失っただけではなく、永遠に失ってしまったことを理解している。こうしたことは、すべてたったひとつのことから生じた。つまり、**日本当局が米国に迎合し、ロシアの孤立化に貢献しようとしたから**である。よく言われるように『他人に悪いことをすれば、自分に返ってくる』のである。



<https://x.com/Z58633894/status/1832258997711466555?s=09>

## ◎トランプ大統領、ウクライナ戦争の最中にロシアに対するすべての制裁を解除すると誓う、その理由はこれだ(2024年9月7日)

<https://youtu.be/m6nxJZOZdqE>



共和党の大統領候補ドナルド・トランプ氏は9月5日、ウクライナ侵攻を理由にバイデン政権がロシアに課した制裁措置をすべて解除すると述べた。トランプ氏は制裁措置が米ドルの世界的な優位性に打撃を与えていると述べた。同氏は「イランを失い、ロシアを失いつつある。中国は自国通貨を支配的なものにしようとしている。米ドルの優位性は失われるだろう」と述べた。

<https://www.youtube.com/watch?v=m6nxJZOZdqE>

⑩Russia News】9/7 時事ネタ土曜版です👁️!!(ニキータ、2024年9月7日)

<https://youtu.be/qrZgUr-LCvE>



<https://www.youtube.com/watch?v=qrZgUr-LCvE>